

精機工業所と中島飛行機

「阪神元町駅に地下工場」との大きな見出しで2016年8月13日の毎日新聞は伝えています。これは、太平洋戦争末期の1945年3月、地下を走る阪神電車の三宮～元町間の運転を止めて、軍需工場を避難のため移転したものです。精機工業所社史（尼崎地域研究史料館所蔵）には、「軍需省命令により神戸市阪神電鉄元町終点駅地上6階地下2階全層を疎開工場として使用」と記されています。軍機「隼」などを製造する中島飛行機で使われたエンジンのギアなどが、精機工業所で生産されていたようです。戦況悪化、材料も人手も困窮する中、地下工場においてはなかなか生産には及ばなかったようです。間もなく終戦を迎え、同年11月には再び電車が走りだしました。

なお、中島飛行機から解体された会社は多くが現在でも存続しており、富士重工業（スバル）やマキタは有名です。また、最終的に日産自動車へ吸収された富士精密工業（中島飛行機東京工場→富士精密工業→（旧立川飛行機出身者によるプリンス自動車工業と合併）→プリンス自動車工業→吸収合併・日産自動車）もその系譜をたどります。名車スカイラインのや自衛隊のミサイル及び宇宙開発事業団（NASDA）（現：宇宙航空研究開発機構（JAXA））のロケット開発製造にも関わります。事例としては、H-IIA ロケットの固体燃料ブースター、衛星制御システム（液体燃料による姿勢制御）の他、固体燃料ロケットミューシリーズ などです。



映画『加藤隼戦闘隊』にて、「矢印」の部隊マークを描き飛行第64戦隊機を「演じた」明野陸軍飛行学校の一式戦「隼」二型（キ43-II）たち

前号では、精機工業所の会社はなくなっても、その技術やSKKブランドは受け継がれていると紹介しました。飛行機本体の製造を辿ってみれば、中島飛行機もまた、今日に至る科学技術の基礎を築いたと言えるでしょう。地下工場の秘密を探ってみれば、先駆の人々の苦勞と想い、夢と希望が忍ばれます。

<参考文献>毎日新聞 2016. 8. 13 夕刊 「阪神元町駅に地下工場」

ウィキペディア「中島飛行機」

<取材協力>尼崎市立地域研究史料館

<写真の出典 SummaryDescription >

E一式戦闘機（東宝『加藤隼戦闘隊』） Date 11 October 2015 Source Screenshot Author 東宝（Toho）

日本を法域とするこの映画からの画像は、著作権の保護期間が満了しているため、現在パブリックドメインの状態にあります。